

事務事業名		市道内未処理用地権原取得事業			<input type="checkbox"/> 実施計画登載事業	<input type="checkbox"/> 合併建設計画登載事業
政策体系	政策名	潤いに満ちた土地利用の推進			事業期間	
	施策名	良好な生活空間の創造				
	基本事業名	生活道路の整備			<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 平成11 年度 ~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (計画期間) 年度 ~ 年度 ↓ 全体計画欄の総投入量を記入	
根拠法令					01 08 02 02 07 会計 款 項 目 事業	
所属	部課名	都市整備部建設課			全体計画 (期間限定複数年度のみ) 総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計 (A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B) 0 トータルコスト(A) + (B) 0	
	係名	用地補償係	電話	0192-27-3111		
			内線	313		
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 市道用地内に、市有地、里道、水路(いわゆる赤線、青線)の他に、未だ大船渡市が所有権を取得していない個人等名義の土地(未登記地)が多数存在することが確認されており、その数量は、市道路線1,355路線(旧大船渡分990、旧三陸分365)の内、区画整理事業等により権利関係が整理されている305路線を除いた1,050路線に約32,000筆存在すると想定される。(1路線あたり30筆が存在するとして、路線数を乗じた数) 未登記地は、町村合併以前に旧町村が寄附により取得したもの、農協が道路を開設し農道として市に寄附しその後市道に認定されたもの、旧町村の財産管理委員会が道路用地を買収して市に寄附したもの、市が開設した農林関係道水路用地、市が改良を行った市道水路用地について、取得時点又は事業施行時点で、大船渡市への所有権移転登記を行わなかったために発生したと考えられ、さらに過去の国土調査事業の際、地籍図上にその所在、形状が記載されなかったため、正確な数量の把握が困難になっている。 業務は、かかる土地の所在、形状、面積を調査し、現在の登記名義人又は管理者からの寄附を受け、大船渡市への所有権移転登記を行う。事業費は委託料として支出される。						

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
手段 (主な活動) 前年度実績 (前年度に行った主な活動) 市道清水2号線の一部(字清水地内)約50m及び市道小通線の一部(字平山地内)約110m区間の測量調査を行った。また、市道清水2号線の用地交渉を行ったが、相続登記中及び施工当時の条件等で登記にはいたらなかった。さらに、市道小通線も用地交渉を行ったが、相続等の処理のため時間の猶予を求められ登記にはいたらなかった。 今年度計画 (今年度に計画している主な活動) 市道小通線の一部(字平山地内)約150m区間の測量調査、登記名義人又は管理者から寄附を受け、大船渡市への所有権移転登記を行う。		名称 ア 用地交渉した土地筆数 イ 用地交渉した登記名義人数 ウ	単位 筆 人
対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 本来、大船渡市所有となるべき市道用地内の土地の内、未だ個人等名義のまま存在する土地		名称 カ 市道用地内に存在する想定未登記地筆数 キ ク	単位 筆
意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか) 大船渡市所有にすることで、市道としての管理が適正に行えるようにする。		成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) 名称 サ 大船渡市への所有権移転登記が完了した土地筆数 シ ス	
結果 (基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか) 安全で快適に移動できる。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (目標)	22年度 (目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	700	452	3,936	1,407	1,000	1,000
		事業費計 (A)	千円	700	452	3,936	1,407	1,000	1,000
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	50	50	50	50	50	50
		人件費計 (B)	千円	200	200	200	200	200	200
		トータルコスト(A) + (B)	千円	900	652	4,136	1,607	1,200	1,200
活動指標	ア	筆	2	4	1	17	5	5	
	イ	人	2	3	1	8	5	5	
	ウ								
対象指標	カ	筆	31,992	31,992	31,988	31,988	31,983	31,978	
	キ								
	ク								
成果指標	サ	筆	0	2	0	0	5	5	
	シ								
	ス								

事務事業ID	0686	事務事業名	市道内未処理用地権原取得事業
--------	------	-------	----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 市道改良事業等に係る調査により、市道用地内に大船渡市所有となっていない個人等名義の土地が多数存在することが判明したため、平成11年度から開始した。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 道路開設時点で生存していた登記名義人が、現在既に死亡している場合、大船渡市への所有権移転登記のために相続人の確定が必要となっている。道路開設時点で既に登記名義人が死亡し相続が発生していた場合、現時点では相続人がさらに増加しており相続人の確定が難しくなっている。 国土調査再調査事業の進捗により、市内の一部地域については、現在法務局が管理する地籍図に地番、形状が記載され、現況に即した登記面積に更正されているが、登記名義人は個人等のままである。	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 平成11年度の事業開始時点に開催した説明会において、市道用地内に存在する個人等名義の土地の登記名義人(又はその相続人)からは、現在まで未登記であった理由への質問と、早急な登記手続き完了の要望があった。	

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある [理由] ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている [理由] ↘ 未登記地が発生した元となった市道改良事業等は、既に工事が完了し、供用されてから長年が経過しており、生活道路の整備については達成されているが、この事業で用地交渉を行い、市へ登記するため妥当である。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある [理由] ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である [理由] ↘ 市有財産を適正に管理するためには、市道内の個人等名義の土地について、測量調査のための経費を投じてその所在、形状、面積を明らかにするとともに、大船渡市への所有権移転登記を行わなければならないので妥当である。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある [理由] ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 適切である [理由] ↘ 市道用地内に存在する個人等名義の土地は、現在想定筆数でのみ捉えており、対象となる筆数の確認が必要であるが、その調査に長期間を要するため、未だ行っていない。 意図については、限定されており、拡充の余地は無い。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある [理由] ↘ <input type="checkbox"/> 向上余地がない [理由] ↘ 成果向上には、測量調査実施区間(対象筆数)を増加するための予算措置と区間(対象筆数)増加に伴う事務処理人員の確保が必要である。 予算措置については、平成18年度予算から増額したため、対象筆数の増加が見込まれる。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 [理由] ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 [その内容] ↘ 市道用地内に個人等名義の土地を残すこととなり、市有財産の適正な管理ができなくなる。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) (理由) ↘ 国土調査再調査事業との共同 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる [理由] ↘ <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない [理由] ↘ <input type="checkbox"/> 他に手段がない [理由] ↘ 国土調査は、土地の所在、形状、地目、面積等に関する調査であり、当事業が目的とする大船渡市への所有権移転登記など権利に関する手続きはできないため、あくまで共同でなければならず、連携は行っている。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある [理由] ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない [理由] ↘ 個人等名義の土地が存在する市道には、国土調査再調査事業の対象路線と対象外路線があり、対象路線については国土調査再調査事業の進捗を待つことで、事業費(測量調査委託費)の削減は可能であるが、対象外路線については事業費の削減は成果(大船渡市への所有権移転登記完了筆数)が下がることとなる。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある [理由] ↘ <input type="checkbox"/> 削減余地がない [理由] ↘ 当事業における人件費は、対象の選定と調査、測量委託契約事務、土地所有者からの市道内個人等名義地の取得、その後の登記手続きなどのための正規職員による事務処理が全てである。 それらの内、については、土地家屋調査士又は司法書士等に委託することが可能であり、これにより、成果を下げずに人件費を削減できる。しかし、現在の人件費以上の委託費が必要となる可能性がある。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていない不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある [理由] ↘ <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である [理由] ↘ 当事業の対象市道路線は、基本的には、1級市道から行うこととしている。市道内の土地所有者を受益者とするならば、処理の進む市道と未施行の市道とで偏りがあると云えなくもないが、対象筆数及び市道路線数の量から、全ての市道について一括で事業を行うことは不可能である。	3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

<p>(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)</p> <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td><input type="checkbox"/> 適切</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td><input type="checkbox"/> 適切</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	効率性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<p>(2) 全体総括(振り返り、反省点)</p> <p>市道内に存在する個人等名義地の正確な筆数及び対象市道路線名を把握することで、今後の事業計画がより明確化するが、それらの調査に膨大な日数を要するため、現在進めている事業を休止し、全体の調査を行うか否かの判断が必要となる。</p> <p>有効性、効率性の面では、測量調査及び事務処理のための人件費の増減が成果の増減に直接的につながるため、増加のための働きかけが必要となる。</p>									
目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
効率性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
<p>(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>事業のやり方改善 (<input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 公平性改善)</p> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <p>昨年まで対象路線としていた市道小通線を対象路線から外し、既に国土調査再調査事業が完了している未崎町の市道用地内の未登記地(個人等名義のまま存在する土地)を対象とすることで、事業費(測量調査委託費)を削減し、成果の向上(大船渡市への所有権移転登記完了筆数の増加)を図ることができる。ただし、国土調査再調査事業は対象地区が既に決定しており、個人等名義の土地が存在すると想定されている市道路線のすべてを網羅するものではないため、上記の方針に転換することで当面の事業費の削減は図れても、将来は測量調査委託料を負担して、未登記地の調査を行わなければならない時が来る。逆に、予算の増大については、測量調査委託費ばかりを増加してもその後の事務処理(登記名義人等から寄附を受ける手続き及び登記手続き)に割ける人員が不足しては、成果を上げることができないため、測量調査委託費の増加と併せて、職員が増員か又は事務処理を外注するための委託費の増加が不可欠である。よって、この事業にとって必要なのは、市道路線のひとつひとつについて、多くの時間を費やすことになってもしつづ確実に調査し、大船渡市への所有権移転登記を進めることである。</p>	<p>(4) 改革・改善による期待成果</p> <p>左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「」を記入する。(廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持			×																		
	低下		×	×																		
<p>(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等</p>																						

(職名) 原則として施策の主管課長 (氏名)

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	建設課	
-------	-----	--

<p>(1) 1次評価結果の客観性と出来具合</p> <p>記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)</p> <p><input type="checkbox"/> 記述不足でわかりにくい</p> <p><input type="checkbox"/> 一部記述不足のところがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 記述は十分なされている</p> <p>評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)</p> <p><input type="checkbox"/> 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない)</p> <p><input type="checkbox"/> 一部に客観性を欠いたところがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)</p>																						
<p>(2) 2次評価者としての評価結果</p> <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td><input type="checkbox"/> 適切</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td><input type="checkbox"/> 適切</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	効率性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<p>(3) 評価結果の根拠と理由</p> <p>人員、予算の増加により促進が図られる</p>									
目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
効率性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり																				
<p>(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>事業のやり方改善 (<input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 公平性改善)</p> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <p>路線ごとに確実に調査し、業務を進める</p>	<p>(5) 改革・改善による期待成果</p> <p>左記(4)により期待できる成果について該当欄に「」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「」で記入する。(廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持			×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

<p>(1) 行政経営推進会議等での指摘事項</p>
